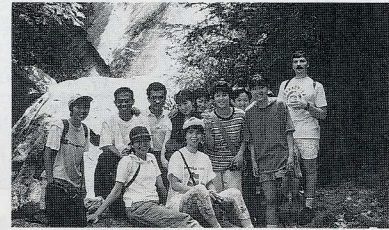


95年5月ゴールデンウィークに
東京浅草の浅草寺前にて

日本でのすてきな体験

医学系研究科博士課程外科系専攻
エム・ルクサル・サレー



95年7月23日 宮島へハイキングへ

日本語は不思議な言葉！

パーティーに連れていきませんが、インドネシアでは妻同伴が当然のことであるといったことです。

日本語もまた私にはとても難しいけれども、大変興味のあるものです。日本語には場面に応じて多くの表現があります。日本語は情緒的で飾った言葉が多く、日本人はどんな場面でもそういった言葉を使います。それは論理的というよりむしろ繊細なニュアンスや感情に満ちたもののように思います。

日本人は間接的な言葉を多く使います。彼らは直接的な表現を好ましく思っていないからです。また、日本語には男性や女性、若者やお年寄りによって違った言葉があり、話す相手によって言葉遣い

が変わります。例えば、身近な人に対しては親しみのある表現を使い、身近でない人には丁寧で礼儀のある表現を使います。

日本語でもしろいのは、来ること、行くこと、ここにいること、あそこにいること、を表すことができるひとつの言葉を持っていることです。例えばそれは、「いらつしやいます」という言葉です。私にとってはとても難しく不思議な言葉です。

最も興味深いのは浅草

日本に来たころは、不安や寂しさでときどきホームシックになっていましたが、今ではずいぶん慣れ、多くの友人もできて日本の生活を楽しんでいきます。

今年の五月のゴールデン・ウィークには、観光で東京へ行きました。東京では東京デイズ・ニードや皇居、新宿といろいろなところへ行きました。なかでも最も興味深く感じられたところは浅草でした。なぜならば、浅草寺ではとても多くのお年寄りがお参りに来ており、そこがお年寄りの町のように感じられたからです。

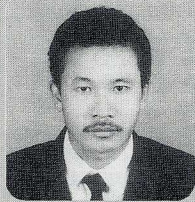
また、七月二十三日には、多くの日本人やカナダ人、アメリカ人の友人たちと宮島へハイキングに

行きました。そこでは山に登ったり、厳島神社や水族館などを訪れ、とても楽しく過ごすことができました。

日本では、あと四年間勉強をしますが、いろいろなところへ行っって日本の言葉や文化について経験をしたいと思います。

プロフィール

- ◆一九六四年四月十四日 インドネシアの南スラヴエシに生まれる
- ◆一九九〇年五月 ハサヌデイン大学卒業
- ◆一九九一年一月〜九三年十二月 南東スラヴエシのシコラ市で勤務
- ◆一九九四年一月〜九四年十月 ハサヌデイン大学で一般外科を勉強
- ◆一九九四年十一月〜九五年三月 研究生
- ◆一九九五年五月〜 広島大学大学院医学系研究科博士課程外科系専攻



私の名前はサレーと言います。インドネシアから広島へ去年の十一月一日にやってきました。今、広島大学医学部整形外科学教室で手の外科と Micro Surgery を勉強しています。

インドネシアでは妻同伴が当然なのに

今回、広島での生活や体験についての話をしたいと思います。私は日本語と日本の文化に大変興味を持っています。私には日本語教室やセミナー、パーティー等を通して知り合ったたくさんの方の友だちがいます。日本語教室に行ったときに彼らと会って話をしたりします。また、彼らはときどきランチに誘ってくれたりします。私は、よく親しい日本人の友だちとインドネシアと日本の文化や習慣の違いについて話をします。例えば、パーティーについての話題では、日本の男性と一緒に妻を